

CAD情報

【オートデスク】

設計分野のコラボレーションハブとして業務を効率化する 『AutoCAD 2013』『AutoCAD LT 2013』

AutoCADは今年で発売30周年の佳節を迎える。その間、市場のニーズを先取りしながら進化を遂げてきた。3月16日に出荷を開始した最新版の『AutoCAD 2013』と『AutoCAD LT 2013』は、オートデスクのクラウドサービスとダイレクトに連動し、場所を選ばずに設計図面の閲覧・編集やコラボレーションが可能になる。『AutoCAD 2013』は3Dモデルのインポート機能なども強化され、従来の設計業務を劇的に変革する。

Autodesk®



オートデスク株式会社
テクニカルスペシャリスト
デベロッパリレーション マネージャー
伊勢崎 俊明氏

クラウドサービスとの連動で モバイルの活用範囲が拡大

『AutoCAD 2013』と『AutoCAD LT 2013』の大きな特徴は、「コネクト（接続性）」が格段にアップし、設計ワークフロー全体をシームレスに結び、統合設計環境を容易に構築できるようになったことである。そのキーポイントは、オートデスクが提供しているクラウドサービスとダイレクトに連動し、モバイル環境での活用範囲が飛躍的に広がったことだ。クラウドサービスの1つである『AutoCAD WS』と一緒に利用すれば、タブレット端末やスマートフォン、CADソフトがインストールされていないノートPCなどのモバイルデバイス

を使って、いつでもどこからでも図面や設計図書にアクセスでき、紙図面を持ち歩く手間やコストを軽減する。さらに複数の設計者間で図面の共有やオンラインコラボレーションが可能になる。

「例えば、アメリカに出張している社員と国内の設計部員が、同じ図面を見ながら打ち合わせができます。クラウド上の図面は共有先に指定した人しか閲覧できないほか、図面内の特定の領域だけを表示するようにも設定できるので、外部に情報が漏れる心配もありません」とテクニカルスペシャリスト デベロッパリレーション マネージャーの伊勢崎 俊明氏は語る。

AutoCAD 2013の主な新機能や特徴

- **迅速な図面化**
断面ビュー／詳細ビューなどの高性能ツールにより、図面作成だけでなくコンセプト段階からプロジェクトの完成までの時間短縮を実現します。
- **設計ワークフロー全体のシームレスな結合**
クラウド上のファイルへのアクセスや保存が可能になり、ユーザは、モバイル機器から設計チームメンバーと場所と時間を選ばないコラボレーションができます。
- **アップデートされたファイル フォーマット**
DWGファイル形式のアップデートにより、パフォーマンスの向上を実現しています。
- **容易なカスタマイズ**
業界ごとのさまざまなニーズに対応するため、AutoCADを柔軟にカスタマイズ可能です。カスタマイズ設定やファイル同期、シブ的な移行ツールなど、Autodesk Exchangeから世界中のAutoCAD アプリケーションにもアクセス可能です。
- **デザインの探求**
Autodesk Inventor Fusionとの統合などの強力な新機能を通じて、ユーザは2D／3Dを問わず、デザイン性を追求できます。

AutoCAD LT 2013の主な新機能や特徴

- **クラウド型サービスにダイレクトに接続**
オンライン上でファイルの共有や同期が可能となり、新たにモバイル送信やコラボレーション開始に便利なツールを搭載しています。
- **自動調整配列複写の強化**
自動調整配列複写を実行する際にリボン タブを利用することで、すばやく簡単にオブジェクトを複製することが可能です。
- **コマンドラインをより使いやすく**
コマンドラインをトップ画面やスクリーン上のボタンとして常駐でき、図面作成ウィンドウ上に透過的に配置することも可能です。

コラボレーションハブ
として
エンドユーザ様の
業務を効率化し
生産性を高める!!



従来のバージョンでは、『AutoCAD WS』に図面を手動でアップロードしなければならなかったが、最新版では、PC上で図面を保存すると、そのコピーが自動的に『AutoCAD WS』上に作成される図面の同期機能が新たに搭載されたほか、クラウド上の図面を直接開けるボタンも配備された。また、多くのユーザがメニューボタンなどを使いやすい配置に変更するカスタマイズをしているが、最新版では、そのカスタム設定の情報もクラウド上に保存し、出張先ではほかのPCにダウンロードして再現できる。モバイルデバイスに図面のアップをプッシュ通知する機能も付加され、利便性が向上した。

3Dインポート機能などの強化で設計業務の生産性を格段に向上

『AutoCAD WS』をモバイルデバイスから利用するための『AutoCAD WS Mobile』アプリでは、多くのユーザの要望を取り入れて15MBまでの3Dモデルを表示できるようになり、HP ePrint Cloud Printing Serviceに対応したプリンタから図面を印刷したり、モバイルデバイスのGPS機能を使って工場施設などの図面上に現在位置を表示してコメントを書き込んだりすることも可能になった。

さらに『AutoCAD 2013』では、オートデスクのクラウド レンダリングサービスを利用して、負荷のかかる演算処理をクラウド上の強力なインフラを使って高速に行うこともできる。例えば、これまで2時

AutoCAD: Take Design Further

世の中のデザイン全てをかたちづくる人々へデザインとドキュメントのさらなる向上に必要なパワーと柔軟性を提供します

 デザイン <small>想像可能などなかなかたちアイデアも探求</small>	 コネクト(接続) <small>デザイン ワークフロー全体を繋げる</small>
 図面ドキュメント <small>世界クラスの編集ツールで図面作成を高速化</small>	 カスタマイズ <small>使いやすくAutoCADをカスタマイズ</small>

間以上かかっていたレンダリングを16分あまりで処理することが可能になる。

また『AutoCAD 2013』では、オートデスク製品はもちろん、それ以外の製造業向けの3次元CADで作成した3Dモデルもダイレクトにインポートし、その2次元図面を簡単に作成できる。新たに断面図ビューや詳細図ビューなどにも対応しているので、日々の設計業務がスピードアップする。

「クラウドサービスとの連動によるモバイル活用や3Dモデルのインポート機能の大幅な強化により、『AutoCAD 2013』が設計分野のコラボレーションハブとなり、設計業務の生産性の向上に

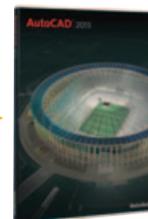
間違いなく貢献します。パートナー様には、そのメリットをよく理解してもらい、それをお客様にお伝えすることで拡販につなげていただきたいです」と伊勢崎氏は語る。

オートデスクでは旧バージョンのAutoCAD LT 98-2009を所有しているユーザを対象に、AutoCADやAutoCAD LTの最新バージョンへのアップグレードが40%OFFになる「AutoCAD LT 下取りキャンペーン」も4月20日まで実施しているので、この機会に設計環境の見直しを提案してみたいかがだろうか。特にモバイル対応の強化は大きな訴求力になるだろう。BP

AutoCAD製品の位置づけ

Autodesk Design Suite

- ・ベターAutoCAD
- ・ベタービジュアライゼーション
- ・ベターアニメーション



AutoCAD

- ・統合設計ソリューション
- ・3Dモデリング
- ・ネットワークライセンス
- ・Citrix XenAppサポート
- ・カスタマイズ



AutoCAD LT

- ・汎用2D設計ソリューション
- ・最大のインストールベース
- ・TrustedDWG

